



# 清新二中だより

## 本校教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人 (敬愛)
- 2 進んで学び、深く考える人 (知性)
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人 (健康)
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人 (責任)
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人 (礼節)

## チャレンジ・ザ・ドリーム

校長 白石 亨

1月の中旬、2年生がチャレンジ・ザ・ドリームを行った。

約40か所の事業所に分かれての月曜から金曜日までの職場体験。飲食店、大型スーパー、コンビニエンスストア、整骨院、動物病院、自動車教習所、各種公共施設、保育園、臨海小学校、清新ふたば小学校などなど、実に様々な事業所の方々に5日間もお世話になった。まだまだコロナ禍の影響が残る中において、職場体験をこころよく引き受けてくださったことがとても有り難かった。心より感謝しなくてはならない。

その体験中日の水曜日、生徒の様子を見るとともに、お世話になっている方々にお礼を述べるため、西葛西駅周辺の飲食店に出向いて回った。ある料理店に入ると、生徒が黙々と仕事をこなしている光景が目に入ってきた。お皿を回収し、テーブルを丁寧に拭くなど、お客様が食事を終えた後の片付けをテキパキと行っていた。声を掛けようと思っていたが、それがはばかられる程、生徒は熱心だった。そしてお店の責任者の方にお会いさせていただき、話を伺うと「いやぁ実によく働いてくれています。もう、十分即戦力になっています」と語ってくれた。そう語る顔が笑顔だった。お世辞抜きであることが伝わってきた。とても嬉しかった。

翌日は臨海地区の体験先へ。

臨海地区の大型スーパーを訪れると、こちらでも生徒が熱心に取り組んでいた。商品の補充作業。多種の商品が積まれたワゴンを引いて、棚の商品の売れ具合を確認して、少なくなった商品を補充していく。今ある商品を棚の前に出して、その後ろ側に新たな商品を補充していかねばならない。とても根気のいる作業だ。生徒3人が1組となって黙々と業務に取り組んでいた。商品を間違えないようにと、その眼差しも真剣だった。

このスーパーでも責任者の方にお礼を述べようとしたが、広い店舗内にはそれらしき方が見当たらない。たまたま野菜売り場で陳列作業を行っていた30歳ぐらいの男性従業員の方が目に留まった。でも、とても忙しそうに作業をしている。声を掛けてしまうと、邪魔になり怪訝な顔をされるのでは・・ともためらったが「すみません。清新第二中の者ですが・・」と小声で尋ねると、作業中の男性はピタリと手を止めた。「校長先生ですか・・実は私、清新第二中の卒業生なんです。山本校長先生の代の卒業生です・・」と言って満面の笑みを見せてくれた。「清新第二中の生徒さん、とても頑張ってます」と、はるか年下の後輩の仕事ぶりを褒めてくれた。そして自分の仕事を中断し、責任者の方がいるバックヤードまで懇切丁寧に案内してくれた。

15年前の清新第二中生がそこにいた。そして立派な大人になっていた。

教育はよく10年後20年後の先を見据えた息の長い営みであると言われていたが、立派な社会人になっていることが嬉しい。そして今度は立場を変え、地域社会の一員として中学生の成長を支えてくれている。

チャレンジ・ザ・ドリーム。

正直言って、当初、職場体験に対してオーバーなネーミングだと思った。だが、今はそうは思っていない。

小学生の頃から抱いてきた野球・サッカー選手、歌手・アイドル、漫画家、宇宙飛行士になりたいなどの漠然とした憧れや将来の夢に対し、チャレンジ・ザ・ドリームは実際の職場の様子を知らしめてくれる。だが、子供の頃よりもち続けてきた夢を見失わず、また現実も鑑み、その両者のバランスを踏まえる中で、自分の夢を再構築していく契機にしてもらいたい。そう、夢への挑戦はまだまだ第一歩を踏み出したばかりだ。